SDGs×ESD レポート　Vol.2

発行：NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

ESD-J は、**2030 年**に向けて会員の皆様や NPO、政府、自治体、企業、学校等と連携し、ESD の促進と SDGs の達成に尽力していきます。「**ESD for SDGs**」を踏まえた**ビジョン・ミッション**を明文化することで、ESD-J の**今後の活動の方向性**を明確化することとしました。

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）達成に貢献する ＥＳＤ-Ｊのビジョンとミッション

私たちのビジョン

- **ESD-J は、マルチステークホルダー型の市民組織として、持続可能な開発のために求められる原則、価値観、行動が、教育や学び・人づくり、地域づくりのあらゆる場において主流化していくことを目指す。**
- **ESD-J は、ESD や ESD を機動力とした SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する。**

ミッション①ネットワークの構築

マルチステークホルダー型ネットワーク組織の特性を生かして ESD-J 会員に依拠しながら、多様な個人と組織をつなぐ。

ミッション②政策提言

ESD-J 会員や地域の声を拾い、ESD 活動支援センターと協働し、ESD や ESD を機動力とした SDGs に関する普及・啓発活動に取り組み、政策提言を行う。

ミッション④人材育成

各地のキーパーソンと連携・協働して、それぞれの地域に合った ESD コーディネーター研修等を広め、ESD や ESD を機動力とした SDGs 推進のための人材育成に貢献する。

ミッション③ハブ機能

ESD 活動支援センター（全国センター）の運営を通じて、また地方の ESD 活動支援センター等との連携により、ESD 推進ネットワークの広域的なハブ機能を果たす。

ミッション⑤海外との ESD 推進ネットワークの構築・強化

アジア NGO ネットワーク（ANNE）をはじめとする海外との ESD 推進ネットワークを構築・強化する。

2015 年に「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、国際的な行動計画として、2030 年までに、達成すべき 17 目標と 169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標：SDGs」が掲げられました。教育は目標４の 7 項目に設定されましたが、「持続可能な開発のための教育＝ESD」は、全ての目標を達成するための「鍵」であると認識されています。「ESD」とは、学校教育にとどまらず、地域・社会において、多様な人々が対話と関わり合いを通じて、課題の解決に取組み、後世に明るい未来を繋ぐための価値観や行動する力を育むプロセス全体を意味します。

INDEX

ESD-J のビジョンとミッション…P1
活動報告…P2
羅臼プロジェクトの続報…P3
地域担当理事の活動紹介…P4
企業インタビュー…P5
理事・事務局スタッフ紹介、今後の予定…P6

ESD-J Activity Report　2019.4~7

2019 年度 ESD-J 通常総会　開催日：2019 年 6 月 23 日（日）

2019 年 6 月 23 日、西日暮里・日能研ビルの会議室において、2019 年度通常総会が開催されました。総会で承認された 2018 年度の事業報告書・決算報告書、2019 年度の事業計画書・活動予算書、並びに総会議事録は、当団体 HP の「情報公開ページ」にて、ご確認いただけます。前号の企業インタビューページでご紹介した日能研・代表取締役の高木幹夫さんは、顧問に就任致しました。

総会には、毎年参加して下さっている会員の方々をはじめ、初めて参加して下さった方々もいらっしゃったため、出席者全員の自己紹介と、取り組んでいる ESD 推進活動について発表して頂く時間を設けて交流を図り、親睦を深めることができました。

ESD CAFE TOKYO 実施報告

ESD CAFE TOKYO は、毎回テーマに即した講師を呼び、講演とワークショップを組み合わせたカフェ（お茶とお菓子付き）のイベントです。現在は不定期に実施しています。

■「イタリア・レッジョ・エミリア研修に参加して」（第 3 回）
～子ども達は文化を創造する力を持っている～

開催日：2019 年 5 月 18 日（土）
時間：14:00～16:30　参加者：14 名

子ども達の持つ無限の可能性を信じ、教育の理念として具現化しているイタリアの街、レッジョ・エミリアの実践を学び・日本の幼児教育を問うワークショップを開催。埼玉県坂戸市の法人にて、学童保育とコミュニティー・スペースを兼務している平山雄大さんをお招きして、イタリア・レッジョ・エミリアの現地研修のご経験についてお話しいただきました。色々な立場の参加者の方々と、海外の教育方法について学び、日本の教育についてなど様々な意見を共有する事が出来ました。

■参加者の感想
・レッジョ・エミリアのアプローチについてほぼゼロの知識から本当に基本的なところも教えていただき、教育の主体性、探求の大切さを再認識しました。
・他の国の教育を知るのが楽しい。
・グループごとに気になる事を共有することで、聞きたかった事を思い出せた。
・それぞれの方のお話や考えを伺い、何かを規定する場＝教育という考えを変えた見方で学校を見る必要があると感じました。
・中・高学校教育でも信念は変わらないと感じられました。
・レッジョ・エミリアと今実践していることが整理され、大事なことを活かしたいと思えました。

■夏休み企画！「ぜつめつきぐしゅってなぁに？」（第 4 回）

開催日：2019 年 7 月 27 日（土）
時間：14:00～16:30　参加者：14 名

日本でただ一人のスナドリネコ研究者 WilCoLa 代表鈴木愛さんをお招きして、絶滅危惧種のスナドリネコの研究方法をお話いただきました。また、後藤尚味さんによる『紙芝居』では、スナドリネコ親子の生活と人間との関係性について学び、子ども達、大人達、皆でどの様に共生できるかを考える対立解消手法を用いたロールプレイング形式のワークショップを行いました。

■参加者の感想
・スナドリネコについて知れて、さらに国際的な取り組みの大変さも分かりました。
・子ども向けながら専門的な内容もあってとても面白かった。
・子どもたちにも分かりやすく楽しめました。
・最近は大人としか話をしていないのでとても新鮮でした。
・子どもと一緒だったので、ストレートな意見が聞けた。実際に現場で起こっていることが感じられた。
・普段考えることのないことを考えるきっかけとなりました。（スナドリネコのお母さん、鶏を飼育しているお母さん、お互いの生活がかかっている中で、何が出来るんだろう。そして自分には何が出来るのか。）
・子どもに少しでも現実を知ってほしい。
・絶滅危惧種の保護の難しさを実感した。

ESD-J は 2019 年度ユネスコ活動費補助金「SDG s 達成の担い手育成（ESD）推進事業」を受け、北海道の羅臼町をフィールドとして取り組んでいます。

2019 年度ユネスコ活動費補助 SDGs 達成の担い手（ESD）推進事業
～『知床学』を通じた地域資源の発掘と地域振興の担い手づくり～

担当理事：大塚 明

羅臼町は、過疎高齢化が進む日本の地域社会の典型で、漁業が低迷し人口の減少に悩んでいる地域です。この現状を何とかしたいと、羅臼町の教育長をはじめ教育委員会主幹の金澤裕司先生が中心となって ESD を始め、知床の自然環境や歴史、文化を幼・小・中・高を貫く地元学「知床学」を中心に据えて進めてきました。その ESD が様々な要因により持続不可能な状態になりつつあります。

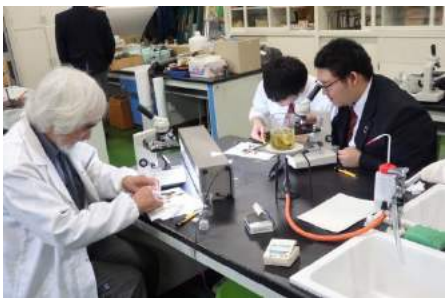
そこで、6 月 23 日に行われた ESD-J 総会後、金澤先生をお招きし、「羅臼町の ESD」と題して講演をしていただきました。その後、内部環境として羅臼町の学校の強み（S）、弱み（W）と外部環境として羅臼町の機会（O）、脅威（T）を整理し、参加者全員を 6 グループに分け SWOT 分析を行いました。えんたくん*を使ったグループ討論では、ESD-J の会員ならではの様々な立場に立った解決策が提案され、金澤先生も大変感激され、有意義な意見交換会となりました。今後は、これらの提案を受けて羅臼町の ESD が「SDG s 達成の担い手を育成」し、地域の持続可能性に寄与する人材育成につながるように ESD-J として伴走したいと思います。

本事業では、地元企業や主体と連携して課題解決型学習（PBL）として開発・実施することにより、地域に愛着を持ち SDGs 達成の担い手を育てる教育のモデルを開発し、全国に発信することを目指します。羅臼町の人口減少と高等学校存続の危機という課題への解決の糸口として、「知床学」を通して、地域の価値や魅力を学び羅臼に対する誇りや愛着を育て、若者の地元での就職や U ターンを促し、人口減少を食い止める方法を模索しています。例えば、「クマ学習」や観光・水産業についての体験的学びを通して、地域の魅力や可能性を知り郷土への愛着を強めました。この活動は SDGs の目標 15 や 11 につながるものであり、特産物である昆布についての学びは目標 6 や 14 に結びつく学習です。児童・生徒はこれらの学習を進めることで、地域の抱える様々な課題に気づいてきましたが、その気づきをもとに自ら行動を起こしたり発信したりする力が十分に育っていません。そこで、その気づきをもとに自ら課題を追究する PBL を SDGs と結びつけて行い、町に提言したり行動を起こしたりすることを通して自分たちの可能性を認識し、やがては SDGs 達成の担い手となる若者を育成することを目指します。

*段ボールで出来た直径 1 mの円形のボードで、輪になって座り、膝にこのボードを載せて机として使います。

金澤先生　車座トークにて

現地での授業


現地での授業

様々なパンフレット（車座トークにて）

車座トークで使用したえんたくん

ESD for 2030 を踏まえた地方の ESD の取り組みと課題
～第１回　東北地方～

東北地方担当理事：小金澤孝昭

東北地方の ESD 推進の取り組みは、東北地方 ESD 活動支援センターと ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムの連携を軸に進んでいます。地域 ESD 活動推進拠点も東北各県で登録されていますし、コンソーシアムも推進拠点に登録する予定です。ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムの活動を紹介すると、コンソーシアムは現在、東北地方に 10 のサテライト地域を持ち、学校づくりや地域づくりのネットワークを組織しています。

サテライトは、青森白神、秋田大仙、岩手平泉、気仙沼、大崎、仙台地域、富谷、白石・七ヶ宿、福島安達、福島只見で、世界遺産やエコパーク、世界農業遺産に登録されている地域での実践が行われています。今年度は、世界遺産の平泉、被災地域気仙沼、世界農業遺産の大崎地域、エコパークの只見町の 4 つの地域の ESD/SDGs カリキュラム・プログラムの開発に取り組んでいます。

一例として、ここでは世界農業遺産の認定を地域振興の柱に置いている大崎地域を紹介します。世界農業遺産は FAO（国連食糧農業機関）①持続可能な農林水産業、②伝統的な技術、③生物多様性、④伝統的な文化や社会組織、⑤特有の景観の基準から認定されたもので、現在日本では 11 か所が認定されています。大崎耕土は鳴瀬川、江合川の領域全体での持続可能な水田農業を支える伝統的な水利システムや生物多様性を維持する居久根（防風林）景観が評価されました。現在この資源を市民・消費者に可視化して地域の生きている遺産として活用するプログラム・カリキュラムを作っています。

大崎耕土の居久根（いぐね）景観

詳細は 8 月 19 日の日本 ESD 学会のシンポジウム（仙台：宮城教育大学）で。
（開催情報 URL：http://jsesd.xsrv.jp/event/）

国際情報

“ESD for 2030”
～SDGs の達成に向けたユネスコの焦点～

① ESD は、「“学んでいる個々人が変化するプロセスやその変化がどのように起こるか”に」注目します。個人の変化には段階があり、まず既存の価値観を壊すこと、知識の習得、社会の複雑性の理解、現実への批判的な分析、共感、思いやりや連帯の育成等がこのプロセスには含まれ、考え方や態度の変化の詳細に着目します。

② ESD は、「この社会の発展の持続可能性を阻害している構造的な要因に対して、とりわけ、経済の成長と持続可能な開発の関係に対して」の働きかけが必要です。ESD は人間の尊厳を守ることを前提に、利害のバランスを取ることで保護、中庸、連帯などの価値観を尊重した発展を目指します。

③「テクノロジーの発展」により、 これまで課題とされてきた持続可能性に関する問題の一部は解決される可能性があり、人々の行動を変革しようとしてきた ESD の試みの中には不要となる活動があるかもしれません（例えば、省エネ行動を推進するという“ESD 的な活動“が、スマートシティ・テクノロジーの技術の進歩で必要なくなる等）。しかしながら、テクノロジーの発展そのものが新たな課題をもたらす、あるいは、もともとあった問題が解決されたという誤解を与える可能性があります。そのため、ESD は、批判的な考え方を身につけることがより重要となり、SDGs 達成のために企業セクターとより緊密に連携し、包括的な課題の解決を目指すことが重要となってきます。(2019 年 2 月)

出典：https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000366797

グローバル・アクション・プログラム（GAP）最終年の動き
―GAP パートナーネットワーク会議の開催（ベトナム）―

ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）は、「あらゆる分野における ESD 活動の創成・活動を通じた、持続可能な開発のための教育の強化・再構築」を目的に遂行されました。この会議では、GAP が最終年を迎えるため、主要なパートナーが 5 年間の教訓や活動の進捗について情報共有し、ポスト GAP の ESD の枠組みについて話し合いました。ポスト GAP の枠組みは、今年開催される第 40 回ユネスコ総会にて採択される予定です。

出典：https://en.unesco.org/themes/gced/esd-gced-forum2019

第２回　企業インタビュー　王子ホールディングス株式会社
コーポレートガバナンス本部　環境経営推進室　室長　田中良正さん

ESD-J の設立当初より「割り箸リサイクル活動」の寄付金を通じて当団体の活動を長年支援して下さっている王子ホールディングス株式会社様より、持続可能性な社会の実現に資する活動の中から環境教育について伺いました。

環境教育への取り組み

王子グループは、環境・経済・社会に配慮し、木を植え、木質資源を作りながら無駄なく利用するとともに、生物多様性に配慮した森林保全等を行うことにより、次世代へ森林をつなげる事業活動を実践しています。この事業活動は、2030 年を達成年度とした 17 の目標、169 の指標からなる SDGs とも親和性があり、持続可能な社会の実現に 1 企業として貢献していくことができると考えています。そこで、私たちは、森林を未来につなげるためには、環境への配慮のみでは成立せず、社会性、経済性への考慮も必要であるという事を、次世代を担う子供たちに伝えるべく、環境教育を行っています。環境教育の実施にあたり、「企業にとって都合の良い教育」とらないよう第三者の意見を取り入れることができる「外部団体と協働した環境教育」を根幹としています。

①体験・体感型の教育
「王子の森・自然学校」

王子ホールディングス（当時の王子製紙）は、2004 年より公益社団法人日本環境フォーラムとともに、当社が所有する社有林や製紙工場を「子供たちの学び舎」として活用する「王子の森・自然学校」を開始し、2018 年までに約 1,100 人の子供たちが参加しています。「人・森・産業のつながり」について学ぶことを目的としたこのプログラムは、植林、間伐などの体験と製紙工場見学を通じて、森林保全、森林の多面的機能を体験、体感するとともに森林の恵みから自分たちの身近な紙ができること、森林資源を利用した産業の発展について学び、理解を深めます。

間伐体験の様子（静岡県富士校）

製紙工場見学の様子（北海道校）

②講義式の教育「森林えほんコンテスト」

当社は、2015 年より公益財団法人 WWF ジャパンと当時の西町インターナショナルスクールの先生と協働で「森林えほんコンテスト」を始めました。「森林えほんコンテスト」では、初めに WWF ジャパンが環境団体としての立場から、世界的に森林面積が減る中、そこに生息する動物たちにどのような問題が起きているかについて伝えるとともに、直接自分たちが木を植えたり、動物保護活動ができなくても森林認証製品を使うことで間接的に森や動物を守る事ができること（消費活動で間接的に自然を守る協力ができるということ）、当社は企業の視点から「木を使う責任」として、どのように森林減少の抑止や生物多様性に配慮した森林保全に取り組んでいるかを、動画などを交えながら子どもたちに伝えます。その後、子どもたちは先生の助言を受けながら、授業や課外活動で、森林減少や動物たちに今起こっている問題をどのように解決すればいいのかを調査・考察し、最終的に「えほん」にまとめ、製本した優秀作品を受賞者にプレゼントしたり、森林絵本コンテストに参加した作品や感想を発表する場を提供するものです。

絵本を読むなどの詳細は・・・

URL：http://team-morrie.com/shinrin-ehon/index.html

授業後の質問コーナー

森林認証製品を持ってパチリ

調査・考察・えほん作成

展示会（エコプロ）で発表

写真提供：WWF ジャパン

「森林えほんコンテスト」には、2015 年に始めてから、毎年少しずつ広がり、現在までに約 1,800 人の小学生が参加してくれました。また、2018 年には、初めて支援学級の生徒さんも参加しています。「継続は力なり」、今後も環境教育を継続し、そこで学んだ子どもたちが、成長していく過程で何かヒントを得て、一人でも多く、「持続可能な社会の実現」に向けて自ら行動してもらえたら嬉しく思います。

2018 年度からの新しい理事を紹介します

【関東担当理事】

鳥屋尾　健（とやお　たけし）

（公財）キープ協会・環境教育事業部・事業部長、並びに山梨県地球温暖化防止活動推進センターの事務局長として保育園、学校、地域、ＮＰＯ、企業、行政等多様なセクターを繋ぎ、「自然体験型環境教育」や、マルチセクターの関わる協働事業を実践している。

【四国担当理事】

小松　柊（こまつ　ひなり）

愛媛県新居浜市の出身で、四国地域を担当。新居浜市は全ての小中学校がユネスコスクールになっており、市全体で熱心に ESD に取り組んでいる。新居浜グローバルネットワークのメンバーであり、ユース世代の活動をサポート、促進する活動を行うとともに、全ての世代がつながり、協力できる社会を目指して活動している。

【九州担当理事】

眞鍋　和博（まなべ　かずひろ）

北九州 ESD 協議会や ESD 地方センターのメンバー、並びに北九州市立大学地域創生学群教授として地域社会の持続可能性に着目し、その解決に向けて行動できる人の育成に取り組んでいる。更に、SDGS 時代に求められる企業活動とそれに資する人材育成へも取り組みを広げている。

今後の予定

■ **10 月**

・5-6 日
グリーンチャレンジデー2019
in 新宿御苑　環境省環境教育推進室のブース出展の企画・運営

・第 2 回 ESD-J 理事会

■ **11 月**

・NEWS　LETTER vol.3 発行

・第 5 回 ESD CAFE TOKYO

■ **12 月**

・20-21 日
ESD 推進ネットワーク
全国フォーラム 2019

イベントにつきまして詳細が決まりましたら、メーリングリストでご案内します。メールアドレスの変更がございましたら、事務局までご連絡下さい。

メール : jimukyoku@esd-j.org

事務局スタッフ紹介

事務局長

横田　美保（よこた　みほ）

2008 年、えひめグローバルネットワークの職員として『ESD』と出会い、教育、再生可能エネルギー、農業、農村金融の事業を通じモザンビークの持続可能な発展に 9 年間従事した。ESD の重要性を認識し、今年 5 月から事務局長として ESD-J の運営に携わることとなった。

武田　朋子（たけだ　ともこ）

公益法人に 25 年間勤務後、2017 年より事務局メンバーとなり、ESD の取組を勉強しながら活動の支援に関わっている。趣味はパンやケーキ作り。

後藤　尚味　（ごとう　なおみ）

公立中学校の英語教員、国際交流事業事務局職員、環境コンサルの研究員等の経験を活かして、ESD-J のほかにも、複数の環境 NGO 活動の支援に携わっている。（ラムサール・ネットワーク日本、国連生物多様性市民ネットワーク、こうほく・人と生きもの支えあう会）

齋藤　さおり（さいとう　さおり）

ガールスカウト活動を通して『ESD』と関わり、公益法人に 20 年勤務後、2017 年より事務局メンバーとなり、ESD 活動の支援に携わっている。趣味は登山やキャンプ。

■編集後記

今年度は、ESD カフェをはじめ、大人も子ども楽しく参加して頂けるイベントを実施しています。今年もグリーンチャレンジデイの環境省ブース出展のお手伝いをさせて頂く事が決まりました。クラフトや参加型アクティビティを準備しています。！皆様のご参加をお待ちしております！
ニュースレターのご感想、ご意見等、事務局までメールでお寄せください。

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201　T:03-5834-2061　F:03-5834-2062

◎会員募集中：正会員（10,000 円）、準会員（3,000 円）詳しくは WEB サイトをご覧ください◎